

40 明治6年9月28日 菊池長閑宛

第拾五号 九月廿八日認
(長閑注記)

△印ハ何れも給貸生徒之納ル高ニ御座候

先便申上候月謝金一件色々周旋致候て先月ニ四円宛拝借願書面
差出候尤モ学長工面談致今春之如き御迷惑懸上候儀ニも至候て
ハ御願不申旨篤と咄候所段々教授料拝借願候者も有之且県工
管り事六ヶ敷ハなし文部省之方願立可申併可否ハ曉ト申廉候趣
被咄候四円トいふハ今度新築之学校ハ略専門校ニテ私ハ本科
予科ト二等ニ候故謝金も高相成式円之処前四円ニ定候當春紛糾以
アルナリ△來ハ毎月一円ニ歎願して是亦合せて拝借可願ト存居候尤モ成ト
不成ハ分兼候○一旦ハ新築舍ニ移住可致候得共只今居候處を建
直し屋敷ニテ生徒ノ住唯月俸而已拝候生徒を置候由且一人ニテハ
先達申上候苦情有之候得共同級之人一人私居候得ハ矢張月俸而
己ニテ居度申候故愈建直迄新舍ニ移居し其節兩人なれハ少しほ
宜候故此屋敷ニ戻可申尤両人ニても勉強ニ不都合ノ事多候得ハ
再乍不得止新舍ニ寄寓可致と窃ニ相談致居候此段御舍被下度候
先教授料拝借ニ相成候得ハ一安心且此屋敷ニ無障碍勉強出来候
得ハ此上も無安堵ト心願致居候

御尊父様

武夫拝

(長閑注記)

「〔十ノ五日達し右返事此方十八号ヲ以十月廿九日郵便へ出し」